

南北通勤鉄道計画（マロロス - ツツバン）【フィリピン】

施策所管局課 国別開発協力第一課

評価年月日 令和8年4月

1 案件概要	
(1) 供与国名	フィリピン共和国
(2) 案件名	南北通勤鉄道計画（マロロス - ツツバン）
(3) 目的・事業内容 * 閣議決定日、供与条件などを 含む	マニラ首都圏の南北軸の近郊と首都圏を結ぶ「南北鉄道計画」のうち、北方のブラカン州マロロス市から首都圏マニラ市ツツバンまでの区間の整備を実施することにより、マニラ首都圏の交通ネットワークの強化と深刻な交通渋滞の緩和を図り、もってマニラ首都圏の経済圏の拡大と大気汚染の緩和に寄与するもの。 事業の内容 ・ 高架部分及び盛土部分の土木・建築工事 ・ 車両基地整備 ・ 鉄道システム整備 ・ 車両調達 ・ コンサルティング・サービス ア 閣議決定日：平成27年11月17日 イ 供与限度額：2419.91億円 ウ 金利：0.1%（コンサルティング・サービスについては、0.01%） エ 償還（据置）期間：40年（10年） オ 調達条件：日本タイド
2 事業の評価	
(1) 経緯・現状	ア 社会ニーズの現状 本事業の計画当初、マニラ首都圏では急増する人口により生じた深刻な交通渋滞は円滑な貨物物流や人々の移動を阻む大きな障壁となっていた。特に首都圏の南方においてはマニラ市ツツバンからモンテンルパ市アラバンまでの区間を運行数の少ない非電化の通勤鉄道が一路線あるのみであった。首都圏の北方においては、鉄道自体が存在せず住民は終日時速30km未満の渋滞の中、バスや自動車などによる通勤を強いられていた。このような状況において、マニラ首都圏の南北地域を連結する大規模公共交通の確保が喫緊の課題となっていた。

	現在も、マニラ首都圏における人口集中と経済活動の集積による交通渋滞が依然として課題であり、本事業に関する社会的ニーズがある。 イ 事業遅延に関する経緯・現状 一部パッケージにおける調達の遅れや、用地取得及び住民移転の遅延により、事業が遅延した。 現在、用地取得の達成率は面積ベースで 95%以上であり、住民移転も 70%以上が完了している。2027 年 12 月に部分開業及び 2030 年に全線開業予定。
(2) 今後の対応方針	本件に関する社会的ニーズが引き続きあり、事業完成後は当初計画通りの効果が見込まれているため、事業の進捗を妨げている用地取得および住民移転は一部問題が残存しているものの、実施機関を慎重にフォローしつつ、本事業を継続する。
3 政策評価を行う過程において使用した資料等	・ 交換公文 ・ 外務省の約束状況に関する資料及び案件概要 ・ 政策評価法に基づく事前評価書 ・ 国際協力機構の案件検索 ・ 国際協力機構の事業事前評価表 ・ その他国際協力機構から提出された資料